

# 宗教研究 2012 年度 総目次

## 第 86 巻第 1 輯 (372 号) 2012 年 6 月

### 論文

- カイサレアのバシレイオスと「バシレイアス」  
 ——古代キリスト教における病院施設の一考察——……………土井 健司 1
- ナフマニデスのメシアニズム——バルセロナ公開討論からの展開—— ……志田 雅宏 27
- 西田幾多郎の「場所の論理」と罪悪の問題  
 ——キェルケゴールとの関わりにおいて—— ……太田 裕信 53
- 「国典」・「国教」・「国体」——祭・政・教をめぐる飯田年平の思想—— ……三ツ松 誠 79
- 信仰を支えるもの——白光真宏会における信者達の実践と語り——……………岡本 圭史 103

### 書評と紹介

- Iwao SHIMA, Teiji SAKATA, and Tatsuyuki IDA, eds., *The Historical Development of the Bhakti Movement in India: Theory and Practice* ……高橋 孝信 127
- 出村みや子著『聖書解釈者オリゲネスとアレクサンドリア文献学  
 ——復活論争を中心として——』……………秋山 学 131
- 宇野重規・伊達聖伸・高山裕二編著『社会統合と宗教的なもの  
 ——十九世紀フランスの経験——』……………竹沢尚一郎 136
- 星川啓慈著『宗教と〈他〉なるもの  
 ——言語とリアリティをめぐる考察——』……………冲永 宜司 139
- 伊原木大祐著『レヴィナス 犠牲の身体』……………重松 健人 145
- 松島公望著『宗教性の発達心理学』……………堀江 宗正 151
- 廣田律子著『中国民間祭祀芸能の研究』……………長谷千代子 158
- 林英一著『近代火葬の民俗学』……………山田 慎也 162
- 井上順孝責任編集・宗教情報リサーチセンター編  
 『情報時代のオウム真理教』……………櫻井 義秀 168
- 新井一寛・岩谷彩子・葛西賢太編  
 『映像にやどる宗教, 宗教をうつす映像』……………石井 研士 175
- 藤原聖子著『教科書の中の宗教—この奇妙な実態—』……………桑原 直己 179
- 会報…………… 185

## 第 86 巻第 2 輯 (373 号) 2012 年 9 月

### 論文 特集：災禍と宗教

- 無縁供養の動態性……………池上 良正 3

## 総 目 次

東日本大震災における宗教者と宗教研究者……………	稲場 圭信	29
ニューオーリンズおよびアメリカ湾岸地域における カトリーナ災害への宗教的応答……………	キャサリン・ウェッシーンガー	53
自然災害と自然の社会化……………	氣多 雅子	85
自然悪の苦しみと宗教哲学——神義論的問題の再編成へ向けて—— ……	佐藤 啓介	109
祟り・治罰・天災——日本列島における災禍と宗教—— ……	佐藤 弘夫	133
災害時のチャブレンの働き——その可能性と課題——……………	谷山 洋三	157
永井隆における原爆災禍——従軍体験と職業被曝に注目して—— ……	西村 明	179
生み落とされることば、手渡されていくことば ——水俣病事件と「本願の会」—— ……	萩原 修子	203
阪神淡路大震災被災地における宗教の「当時」と「いま」……………	三木 英	231
洪水神話の文脈——『ギルガメシュ叙事詩』を中心に—— ……	渡辺 和子	257
<b>書評と紹介</b>		
津城寛文著『社会的宗教と他界的宗教のあいだ一見え隠れする死者一』…	吉永 進一	283
王貞月著『台湾シャーマニズムの民俗医療メカニズム』……………	坂出 祥伸	289
李元範・櫻井義秀編著『越境する日韓宗教文化 ——韓国の日系新宗教 日本韓流キリスト教——』……………	川瀬 貴也	293
ルチア・ドルチェ、松本郁代編『儀礼の力——中世宗教の実践世界——』…	松尾 剛次	299
星野靖二著『近代日本の宗教概念——宗教者の言葉と近代——』……………	高橋 原	303
会報……………		309

## 第 86 卷第 3 輯 (374 号) 2012 年 12 月

## 論文

体験を超えて——ジャン=ジョゼフ・スユランの神秘主義—— ……	渡辺 優	1
慧命の回路——明末・雲棲株宏の不殺生思想—— ……	西村 玲	27
折口信夫による産霊神解釈——その戦後神道論を参照して—— ……	関口 浩	49
「伝統」をつなぐこと——等覚寺の松会の伝承についての一考察—— ……	中村 琢	73
「他者」としての知識——ラオス山地社会の呪医の知識についての試論—— …	徳安 祐子	99
<b>書評と紹介</b>		
中村生雄著『肉食妻帯考——日本仏教の発生——』……………	蓑輪 顕量	125
前川健一著『明恵の思想史的研究——思想構造と諸実践の展開——』……………	野呂 靖	130
安藤泰至編『「いのちの思想」を掘り起こす ——生命倫理の再生に向けて——』……………	末本文美士	136
橋本裕明著『東洋的キリスト教神学の可能性 ——神秘家と日本のカトリック者の実存探究の試み——』……………	寺尾 寿芳	142
大谷栄一著『近代仏教という視座——戦争・アジア・社会主義——』……………	岩田 文昭	147

## 総目次

## 猪瀬優理著『信仰はどのように継承されるか

—創価学会にみる次世代育成—	大西 克明	151
川島秀一著『津波のまちに生きて』	滝澤 克彦	158
稲場圭信著『利他主義と宗教』	板井 正斉	164
中牧弘允, ウェンディ・スミス編『グローバル化するアジア系宗教		
—経営とマーケティング—	寺田 喜朗	169
八木久美子著『グローバル化とイスラム		
—エジプトの「俗人」説教師たち—	新井 和広	175
小杉泰著『イスラーム 文明と国家の形成』	小田 淑子	180
黒川正剛著『魔女とメランコリー』	實川 幹朗	185
横田理博著『ウェーバーの倫理思想		
—比較宗教社会学に込められた倫理観—	宇都宮輝夫	192
鶴岡賀雄・深澤英隆編『スピリチュアリティの宗教史』(上巻・下巻)	土屋 博	198
会報		212

## 第86巻第4輯(375号) 2013年3月

## 第71回学術大会紀要特集

## 公開シンポジウム：ためされる宗教の公益

災害時における宗教者と連携の力	稲場 圭信	13
宗教の公共力と復興——環境保護の視点から——	岡田真美子	16
祈りの公益性をめぐる試論		
——3.11によって照り出される「宗教」の境界——	小原 克博	19
東日本大震災後の「絆」再興にみる宗教の“ちから”	鈴木 岩弓	22
デジュリとデファクトの公益	中牧 弘允	26
シンポジウム記録	櫻井 治男	27

## 研究報告

## パネル

## 宗教学, 社会学, 民俗学の誕生——ヨーロッパと日本の共振——

民族学と民俗学——折口信夫『古代研究』の起源——	安藤 礼二	32
モース宗教社会学の生成	溝口 大助	33
ペッタッツォーニ宗教史学の出発点	江川 純一	34
パネルの主旨とまとめ	安藤 礼二	35

## 宗教者側の実践活動から見えてくる東日本大震災後の宗教学的課題

魂への配慮——被災地校教育支援の現場から——	長谷川(間瀬)恵美	37
被災者支援において、〈仏教的〉であるとはどういうことか？	坂井 祐円	38
「再構築」への奉仕——脱カルト支援を手がかりに——	竹迫 之	39

## 総目次

パネルの主旨とまとめ	新免 貢	40
伝統の危機とユダヤ教——築きあげたものが壊れるとき——		
翻訳聖書に見る「危機」解釈と克服——金の子牛像事件を中心に——	大澤 耕史	41
「第二神殿崩壊」はいかに解釈されたか	勝又 悦子	42
マイモニデス『イエメンへの手紙』考察——共同体崩壊危機の克服——	神田 愛子	44
19世紀東欧ユダヤ教の危機とハラハー的伝統の革新	市川 裕	45
パネルの主旨とまとめ	勝又 悦子	46
国家と宗教団体の葛藤の中で——戦後の宗教法制度と宗教法人——		
戦後から沖縄本土復帰までの宗務行政の諸問題	石井 研士	47
沖縄占領と宗教法人	中野 毅	49
琉球政府立法院の宗教法人法参考案	大澤 広嗣	50
本土復帰による墓地、埋葬等に関する法律の適用と現代的課題	村上 興匡	51
パネルの主旨とまとめ	石井 研士	52
宗教史研究のフィールドワーク論		
近代仏教研究における文献史料と文化資料——梵暦資料の多様性——	岡田 正彦	54
佐田介石をめぐる史料調査とその重層——浅野研真から谷川穰まで——	谷川 穰	55
私が資料について感じる二、三のこと——京大文化史学派研究から——	菊地 暁	56
正徳寺資料から見える戦前の仏教国際化	吉永 進一	57
パネルの主旨とまとめ	大谷 栄一	58
移民と宗教を結ぶホームランドへのノスタルジア		
ハワイ日系宗教における現地適応と「日本」	高橋 典史	60
日本人妻が出会った故郷——台湾の日本語教会と高齢者施設にて——	藤野 陽平	61
在日ムスリムの少女たちのエスニシティと複数の故郷	川崎のぞみ	62
想像・創造される場としてのプロテスタント教会	山田 政信	64
パネルの主旨とまとめ	藤野 陽平	65
「国家神道」における公共性と宗教性——昭和戦前期を中心に——		
「国家神道」研究の課題と展望	齊藤 智朗	66
神社対宗教問題に関する一考察——神社参拝の公共性と宗教性——	藤田 大誠	67
無格社整理と神祇院	藤本 頼生	69
今泉定助の思想——神道的国体論の宗教性——	昆野 伸幸	70
パネルの主旨とまとめ	藤田 大誠	71
神祇伯白川家と伯家神道		
諸国門人帳にみる白川家の門人	金光 英子	72
白川家の社祠勧遷と位階執奏	石川 達也	74
白川家門人斎藤彦磨と鎮魂祭	山口 剛史	75
初期禊教の展開と白川家	荻原 稔	76

## 総 目 次

パネルの主旨とまとめ	山口 剛史	77
<b>戦後の日本仏教論——諸学説の再検討——</b>		
戦後日本仏教学説の課題	オリオン・クラウタウ	79
連続と断絶——服部之総の「親鸞」——	桐原 健真	80
圭室諦成著『葬式仏教』再考	ライアン・ワルド	81
戦後日本仏教と民俗学——五来重の場合——	碧海 寿広	82
パネルの主旨とまとめ	オリオン・クラウタウ	83
<b>宗教における死生観と超越</b>		
宗教的信における超越とその構造——諸井慶徳の宗教論——	澤井 義次	84
危機の体験と死生観の形成——現代日本におけるキリスト教理解——	中村 信博	86
ムカッラフ（能力者）概念をめぐる信仰告白表明と審判	四戸 潤弥	87
〈下への超越〉と〈将来する浄土〉——武内義範の「信楽の思惟」——	高田 信良	88
パネルの主旨とまとめ	高田信良・氣多雅子	89
<b>宗教的「いのち」観の危機と課題</b>		
宗教と「いのち」言説——生命をめぐるポリティクスのなかで——	安藤 泰至	91
「いのち」を生きることの困難——僧侶の病床訪問活動から——	大河内大博	92
「選択」から「応答」へ——いのちの倫理における宗教の役割——	空閑 厚樹	93
「いのち」が語られる地平——他なるものとのかわりをめぐって——	竹之内裕文	94
パネルの主旨とまとめ	安藤 泰至	95
<b>大震災の問う物質と靈魂——日本仏教再評価の一環として——</b>		
初期ジャイナ教の生物観——靈性を共に生きる——	杉岡 信行	97
バイオリージョンの視点から見た日本の風土と信仰	永原 順子	98
祟り神としての放射能——仮面の「一神教」と祀りの手筈——	實川 幹朗	99
モノたちとの共生きと癒し——臨床と仏道の環境観——	戸田 游晏	100
パネルの主旨とまとめ	戸田 游晏	102
<b>公共空間における宗教的ケアのあり方——「臨床宗教師」の可能性——</b>		
ケアにおける宗教性再考	高橋 原	103
米国の病院チャプレンにみる公共空間での宗教的ケアの在り方	小西 達也	104
医療現場の宗教者からみえてくる宗教的ケア	森田 敬史	106
被災地から見た「臨床宗教師」の可能性と課題	谷山 洋三	107
パネルの主旨とまとめ	高橋 原	108
<b>東日本大震災後における〈いわき市〉と宗教</b>		
地域構造と宗教分布——被災・避難地域と新旧宗教の立地——	星野 壮	109
現地の宗教者の意識と支援活動——高野山真言宗僧侶を中心に——	齋藤 知明	111
伝統教団内の支援のネットワーク——浄土宗の事例から——	小川 有閑	112
新宗教の震災対応——創価学会と天理教の取り組みを中心に——	寺田 喜朗	113

## 総目次

パネルの主旨とまとめ	寺田 喜朗	114
<b>災害の語りの宗教学</b>		
記紀が描く罪と災害	平藤喜久子	116
江戸時代の災害の語り	松村 一男	117
東日本大震災後の語り	竹沢尚一郎	118
パネルの主旨とまとめ	松村 一男	119
<b>日韓宗教文化のトランスナショナリティ</b>		
韓国における社会変動と日系新宗教の布教	李 賢京	121
韓国のメディアを通じてみる「倭色」宗教	諸 点淑	122
在日大韓基督教会と韓国系キリスト教会の日本宣教	中西 尋子	123
朝鮮学校教員家族における祖先祭祀	猪瀬 優理	124
パネルの主旨とまとめ	櫻井 義秀	125
<b>アジアの宗教と教育</b>		
戒律規定と沙弥教育	龍口 明生	126
オーロピンドの教育論	北川 清仁	128
中国仏教の唱導	宮井 里佳	129
日本の仏教教育	岩瀬真寿美	130
パネルの主旨とまとめ	西尾 秀生	131
<b>日本人の宗教性を問う——欧・米・韓・日の宗教事情を通して——</b>		
韓国の宗教事情と日本人の宗教性	藤 能成	132
アメリカの宗教事情と日本人の宗教性	那須 英勝	134
ヨーロッパの宗教事情と日本人の宗教性	寺本 知正	135
寺院の役割と日本人の宗教性	長岡 岳澄	136
ビハーラ活動と日本人の宗教性	伊東 秀章	137
パネルの主旨とまとめ	藤 能成	138
<b>ポスト世俗主義と公共性</b>		
総論 ポスト世俗主義と公共性	磯前 順一	140
欧米における世俗主義と公共性	藤本 龍児	141
植民地朝鮮における世俗主義と公共性	金 泰勲	142
日本における世俗主義と公共性	島藺 進	143
パネルの主旨とまとめ	藤本 龍児	144
<b>第1部会</b>		
エサルハドンの「宗教改革」	渡辺 和子	146
シェリングとレッシングにおける自然的宗教について	諸岡道比古	147
サンタヤーナと自然的宗教	庄司 一平	148

## 総目次

ルドルフ・オットーにおける宗教と社会問題	藁科 智恵	149
ハイラーの祈り論の現代的意義	宮嶋 俊一	150
フォーマットとしての宗教施設——プルーリズムと宗教の役割——	松野 智章	152
多元主義の社会的文脈における作用実態と将来への展望	渡辺 光一	153
宗教研究におけるライフストーリーの方法論的意義について	宮本要太郎	154
ポルピュリオス『ニュンペーの洞窟』における神話解釈	小野 隆一	155
プロクロスにおける「神に似ること」の問題	土井 裕人	156
宗教伝統の倫理的意義をめぐり一考察	飯田 篤司	158
宗教の現実態と宗教の諸研究——思想研究と実証的研究——	小田 淑子	159
幸福の宗教学	関 一敏	160
自然概念にまつわる言説空間——現代日本の場合——	近藤 光博	161
「自然的救済論／救済論的自然」の概念	深澤 英隆	162
魔女とバロック	黒川 正剛	164
『魔女への鉄槌』に見る悪魔像の構成	野村 仁子	165
市民宗教再考——19世紀フランスの思想家たちに即して——	伊達 聖伸	166
19世紀アメリカ合衆国の健康と宗教実践	佐藤 清子	167
黒人運動にみる宗教的家族組織の形成——米国のオリシャ崇拝より——	小池 郁子	168
ブラック・ディアスポラの宗教運動における「黒人」概念の変遷	上間 励起	169
エリアーデにおける学問と芸術の一体性——美学の観点からの考察——	藤井 修平	170
在ポルトガル・ルーマニア大使館におけるエリアーデの宗教思想	奥山 史亮	171

## 第2部会

「女性神秘家」における理性と経験	村上 寛	173
スピノザにおける無知としての奇跡	大野 岳史	174
デウスからナトゥーラへ——スピノザと17世紀の改革派神学——	加藤 喜之	175
カント哲学における信仰の概念	南 翔一郎	176
美的仮象と遊戯——シラーにおける相互主観性の問題——	田口 博子	177
ジェイムズにおける信じる意志の射程	林 研	179
ヤスパースの「未来における信仰」について	藤田 俊輔	180
フランツ・ローゼンツヴァイクの思想における祈りの問題	丸山 空大	181
存在と情動——レヴィナスからバタイユへ——	伊原木大祐	182
神秘体験と記述に対する一考察——G. バタイユの思想を中心に——	赤羽 優子	184
ハンナ・アーレントにおける「赦し」論の展開	本間 美穂	185
メルロ＝ポンティと祈り	松田健三郎	186
創世記22章における地名モリヤの文学的機能	岩寄 大悟	187
語られた言葉と書かれた言葉——ブーバーのサムエル記解釈より——	堀川 敏寛	188
「ヨシヤの改革」と聖書外資料	高橋 優子	189

## 総 目 次

幻視と夢の図像学……………	細田あや子	190
偽ニュッサのグレゴリオス『聖書選文集』における律法理解……………	高橋 博厚	192
アウグスティヌスの時間論に於ける過去と未来について……………	山田庄太郎	193
再臨運動とホーリネス・リバイバル……………	黒川 知文	194
ユリアヌスの宗教観と宗教政策における「宗教の公益性」……………	中西 恭子	195
<b>第3部会</b>		
アンセルムスにおける affectio について……………	矢内 義顕	197
マイスター・エックハルトにおける神の言述可能性について……………	松沢 裕樹	198
エックハルトの「永遠」理解——Panentheismusの観点から——……………	田島 照久	199
「推測」と〈否定神学〉——クザーヌスの所論をめぐって——……………	島田 勝巳	200
ルネサンスの神話解釈——F. ベイコンの『古代人の知恵』と想像力——……………	下野 葉月	201
ジャンセニウスの「純粹本性の状態」概念批判……………	林 伸一郎	202
神学的後衛としてのエルンスト・トレルチ……………	小柳 敦史	204
テイリッヒの宗教社会主義思想……………	宮崎 直美	205
正義の重荷と恵み——E. ブルンナーの正義論を手掛かりに——……………	今出 敏彦	206
1913年のR. ブルトマン——彼は神学的アヴァンギャルドなのか——……………	深井 智朗	207
アメリカの新聞からみるラインホルド・ニーバー……………	澤井 治郎	209
現代キリスト教における死後世界論の意義について……………	方 俊植	210
内観と悲哀……………	寺尾 寿芳	211
Corpora incorrupta に関する思想史的考察……………	ジョン・モリス	212
対抗言説としてのConspiracy Theory……………	辻 隆太郎	213
共同体の紐帯——イバード派イスラム思想におけるワラーヤの概念——……………	近藤 洋平	214
イスラームの制度化と宗教界の再構成——ベルリン市の事例から——……………	堀 彩子	216
ポスト・スハルト期インドネシアのリベラル・イスラームの展開……………	蓮池 隆広	217
グローバル化時代のイスラームにおけるハラール概念の展開……………	八木久美子	218
F. シュオンとW. C. スミス……………	中村廣治郎	219
コプト教会と総主教——シュヌーダⅢ世の果たした役割——……………	岩崎 真紀	220
中世ユダヤ教の聖書解釈における基準の問題……………	志田 雅宏	221
<b>第4部会</b>		
『金剛般若経』における即非の論理と「如」の思想……………	末村 正代	223
『雑阿毘曇心論』業品における無間業の壊僧について……………	智谷 公和	224
無表業の相続問題……………	日比 佑香	225
『大乘莊嚴經論』菩提品の成立について……………	田口 恵敬	226
六朝～唐代の仏教系散逸医書と伝存医書に見る医方の伝承関係……………	多田 伊織	228
凡夫と大乘菩薩道……………	溪 英俊	229
中国撰述の諸清規における葬送と唱衣法……………	金子 奈央	230



## 総目次

三諦説におけるデイヴィッドソン哲学の位置づけ……………	渡辺 隆明	231
法華經の成立過程についての一試論……………	西 康友	232
バーヴィヴェーカによる自性 (svabhāva) 批判 ……………	兼子 直也	233
アティシャの顕教文献において言及される密教文献……………	望月 海慧	234
古代インドにおける祖先祭祀と女性の関与……………	虫賀 幹華	236
古典インド医学書における浄・不浄の概念……………	森口 眞衣	237
翻訳された理想の女性像——叙事詩『ラーマーヤナ』をめぐる—— ……	榊 和良	238
ヒンドゥー教寺院の内陣について……………	出野 尚紀	239
インドの歴史教科書におけるヒンドゥー・ナショナリズムの叙述……………	澤田 彰宏	240
シュリーマッド・ラージチャンドラにおけるジャイナ教思想……………	間 永次郎	242
北インド・ゴガー神信仰の位置づけをめぐる一考察……………	拓 徹	243
諸宗教間対話は進んでいるか——教会の保守化傾向を考える—— ……	高橋 勝幸	244
<b>第5部会</b>		
親鸞における聖徳太子像について……………	内記 洸	245
親鸞における果遂の誓について……………	杉田 了	246
親鸞聖人の『華嚴經』観……………	永原 智行	248
親鸞浄土教における光の形而上学的意義……………	安藤 章仁	249
『教行信証』における阿闍世の救済と逆謗除取 ……………	林 智康	250
近代以前親鸞伝における善鸞像……………	御手洗隆明	251
存覚上人と法華……………	川野 寛	252
存覚『報恩記』における父母に対する報恩思想……………	谷口 智子	253
大瀛の三業帰命説批判——管見『真宗安心十論』—— ……………	西原 法興	255
清沢満之の宗教哲学における宗教起源論について…ベルナット・マルティ・オロバル		256
清沢満之門下の時代意識——雑誌『精神界』を中心に—— ……………	春近 敬	257
近代真宗の法蔵菩薩詮釈に関する一考察——金子大榮を例に——……………	陳 敏齡	258
親鸞聖人 750 回遠忌報恩大法会の実施報告について ……………	藤喜 一樹	259
九条道家の宗教生活……………	龍口 恭子	261
道元禅師の修証観——十地・等覚について—— ……………	清藤 久嗣	262
道元の密受心印について……………	石井 修道	263
癡兀大慧の禅密思想……………	高柳さつき	264
関山国師と大灯録……………	木村 俊彦	265
鈴木大拙と仙厓——遊戯の視点から——……………	嶋本 浩子	266
鈴木大拙の妙好人解釈……………	蓮沼 直應	268
東西靈性交流における「靈性」の問題……………	峯岸 正典	269
白山——『泰澄和尚伝』試論—— ……………	小林 一葵	270
『日本靈異記』における仏教について ……………	前島 康佑	271

## 第6部会

『叡山大師伝』をめぐる諸問題	前川 健一	273
神秘思想から超越へ——即身成仏（時間と空間の超越）の例——	前田 禮子	274
幸西と証空における信	那須 一雄	275
良忠の本願観——『観経疏伝通記』を通じて——	沼倉 雄人	276
日蓮研究に関する方法論上の再検討——実証主義の持つ限界——	笠井 正弘	277
仏典にみる五障三従説とその超克——法華経・日蓮の視点より——	穂坂 悠子	279
日蓮の朝鮮仏教認識	福士 慈稔	280
日興とその門弟の往来に関する一考察	本間 俊文	281
身延日意目録に関する一考察——書誌学的考察を中心に——	木村 中一	282
敬台院万姫と法華信仰——鎌倉鏡台寺の興廃をめぐって——	長倉 信祐	283
近世日蓮宗の寺檀制度再考	坂輪 宣政	285
書肆・加賀屋善蔵と日蓮聖人伝の出版	堀部 正円	286
長松日扇における教化活動の一考察——本尊授与者をめぐって——	武田 悟一	287
藤井日達の仏教アジア主義とマハトマ・ガンディーの近代文明批判	外川 昌彦	288
修験道系柱松行事の行われる場	由谷 裕哉	290
木曾三川十六輪中における灌漑用の自噴井と水神	下本英津子	291
宮崎県山間部における狩猟のしきたり——西都市銀鏡の事例——	鈴木 良幸	292
真宗「地帯」の再考——三重県津市における宗教民俗の諸相から——	亀崎 敦司	293
宗教民俗学における現世利益信仰の位置	阿部 友紀	294
よさこい系祭りの組織的特徴	芳賀 学	295
グローバル社会における民衆宗教——サンタ・ムエルテを事例に——	井上 大介	297
日本仏教のアメリカ化の諸相——加州の浄土真宗と禅宗を比較して——	釋氏 真澄	298

## 第7部会

宗教的観点からの森林の思想と価値	神守 昇一	299
古代神宮祭祀における聖体示現	新田佳恵子	300
上代における祈りの変容	白江 恒夫	301
相嘗祭の一考察	富田 実	302
近世期における西京神人と御供所——祭礼および営繕活動について——	吉野 亨	303
伊勢信仰と民間における風鎮め	小出亜耶子	305
神道祭祀における祝詞奏上と玉串奉奠について	竹内 雅之	306
近代の御師制度廃止と伊勢信仰について	八幡 崇経	307
藤樹と蕃山の経典（大学・孝経）解釈の違いについて	鈴木 保實	308
山崎闇斎と『日本書紀』神代卷	孫 傳玲	309
若林強斎の祭政一致論	齋藤 公太	311
本居宣長における儒仏伝来の「記述」	森 和也	312

## 総目次

平田篤胤の『黄帝伝記』について——神道と道教との関連で——	坂出 祥伸	313
所謂神基習合神道をめぐる一考察	三ツ松 誠	314
堀秀成の思想と行動——平田派国学者の視点から——	小林 威朗	315
宮地神道とは何であったのか	黒田 宗篤	316
石門心学における宗教体験とその言説	澤井 努	318
経営倫理における石門心学の意義——現状と展望——	中道 豪一	319

## 第8部会

形なき「安心」——福澤諭吉の人生観に表れる宗教性——	島田雄一郎	320
明治期における祖先観の形成——穂積陳重を中心に——	問芝 志保	321
久米邦武のキリスト教観——『米欧回覧実記』を中心に——	西田みどり	323
帝国日本における寛克彦の神道思想とその影響について	西田 彰一	324
前期西田哲学における「意識」の問題	秋富 克哉	325
西田幾多郎「場所」論の宗教的意義	杉本 耕一	326
西谷啓治の「根源的構想力の発動」について	小野 真	327
明治期キリスト教と巡礼ツーリズム	岡本 亮輔	329
内村鑑三の神名解釈	渡部 和隆	330
矢内原忠雄と新渡戸稲造——人間への眼差し——	森上 優子	331
近代日本思想の宗教テキスト解釈——ドストエフスキと聖書から——	飯島 孝良	332
近代における仏教者のキリスト教観——島地黙雷・大等を中心に——	岩田 真美	333
「大逆」の僧・高木顕明の往還二回向理解について	菱木 政晴	335
斎藤茂吉と浅草寺	小泉 博明	336
戦後地域社会における皇族崇敬の検討	茂木謙之介	337
近代中国仏教における末法思想と亡国論の関係について	エリック・シッケタンツ	338
井筒俊彦においての禅思想とその理解	ファン・ホセ・ロペス・パソス	339

## 第9部会

供養あるいは慰霊——日本的宗教性——	浅野 章	341
室町時代における戦死者慰霊	山田 雄司	342
江戸の笑いと死——安永期小咄本の死生観——	大村 哲夫	343
地蔵盆と両墓制——兵庫県豊岡市竹野町の事例——	清水 邦彦	344
葬送倫理試論	近藤 剛	345
青葉園にみる戦後日本における死者への公益性と死の公共性	土居 浩	346
現代の霊場における供養の実態——四萬部寺・八葉寺の事例から——	徳野 崇行	347
「生・死・死後」の色のイメージ——美大生への質問紙調査から——	久保田 力	348
看取りの前後における宗教民俗的な体験・想像・語り	相澤 出	350
看取りの文化考——がん患者遺族の語りにもとづいて——	井藤美由紀	351
現代韓国における自然葬の思想	田中 悟	352

## 総 目 次

戦没者慰霊の一考察……………	白山芳太郎	353
シュヴァイツァーにおける生命観の諸問題……………	岩井謙太郎	354
人工妊娠中絶をめぐる神学的議論についての一考察……………	朝香 知己	355
生命倫理言説の日韓比較——韓国における中絶論争—— ……	金 律里	357
代理母出産と仏教的生命観——四有説を手かりとして—— ……	金 永晃	358
<b>第 10 部会</b>		
サステイナビリティと自然農法——福岡正信の場合——……………	木村 武史	359
岩倉大雲寺妙見の瀧における精神医療をめぐる……	河東 仁	360
幻聴と宗教……………	大宮司 信	361
マインドフルネスと依存症のケア—— Brazier の思想と実践—— ……	葛西 賢太	362
医療と宗教における人間観の問題……………	杉岡 良彦	364
二重の概念図式理論から考える宗教と科学——揺らぐ現実／虚構——……………	谷内 悠	365
生命の起源——デザイナーとしての神概念の科学的検討——……………	十津 守宏	366
明治大正期における“中国哲学”の構築と静坐の実践……………	野村 英登	367
「みかぐらうた」から見る身体技法の翻訳——タイの天理教の事例—— ……	永松 和郎	368
伝統医療と社会福祉——インドの一宗教組織の試みを事例に—— ……	岡光 信子	370
1920－40年代「精神療法」のなかの臼井式霊気療法……………	平野 直子	371
サイコロジカル・ファーストエイドにおける宗教の役割……………	井上ウィマラ	372
法華山一乗寺巡礼札からみる西国巡礼者の出身地域について……………	幡鎌 一弘	373
江戸時代前期の遍路道再現——澄禅『四国辺路日記』を中心に—— ……	柴谷 宗叔	374
説経節を読む——宗教研究としての読解の試み—— ……	千葉 俊一	376
職人巻物の宗教性——船大工巻物の基礎的考察—— ……	小池 淳一	377
渋谷区所蔵の伝・食行身禄書簡……………	大谷 正幸	378
琉球王朝における植物のシンボリズムと聖地……………	平良 直	379
琉球風水の装置としての村獅子について……………	鈴木 一馨	380
沖縄の御嶽と年中行事に関する一考察 ——南城市玉城を中心に——……………	ヒュウエンドリン・ファン・デル・フォルスト	382
仏教とカウンセリングの接点……………	友久 久雄	383
核燃料発電と仏教——新型動力炉命名をめぐる宗教と科学の言説——……………	工藤 英勝	384
<b>第 11 部会</b>		
無常のシンボリズム——震災から考える——……………	長崎 誠人	385
震災死と宗教の役割——四川・東日本の大地震を事例に—— ……	何 燕生	386
災害時帰宅ステーションとしての寺院の可能性について……………	関戸 堯海	388
弘化四年善光寺地震に学ぶこと……………	小林 順彦	389
「羽田七福いなり」のおかれた土地環境と自然災害の関係 ……	深田伊佐夫	390
祭礼行事を媒介とした復興支援のゆくえ……………	板井 正斉	391

## 総目次

イスラーム系NGO・HFによる東日本大震災支援活動……………	嶺崎 寛子	392
ポスト災害社会における宗教——スマトラの事例から——……………	木村 敏明	393
霊場の意味付と顕在化する「違和感」——災害後の熊野を事例に——……………	天田 顕徳	394
空想的社会主義と近代スピリチュアリズムのあいだ……………	津城 寛文	396
インターネットにみる流行神——中国の「受験の神」をめぐる——……………	黄 緑萍	397
政治権力と宗教権威……………	米井 輝圭	398
協働表象（論）の基礎的考察……………	永岡 崇	399
自然悪概念の宗教哲学的再解釈は可能か？……………	佐藤 啓介	400
ハイデッガーにおける自然災害の問題……………	田鍋 良臣	402
<b>第12部会</b>		
キルケゴールにおける地域主義の問題……………	須藤 孝也	403
呪詛と自己犠牲——キルケゴール思想における祈りの本質——……………	中里 巧	404
ニーチェにおける社会性と虚栄心の問題……………	木原 英史	405
ルドルフ・シュタイナーのキリスト観……………	西井 美穂	407
二人称としての神——マルティン・ブーバーの神概念——……………	田島 卓	408
ミシェル・アンリとキリスト教……………	古荘 匡義	409
理性と文化の関係について——グローバリズム批判の視座を求めて——……………	八巻 和彦	410
イタコたちの現在——大和宗を中心にイタコの研究史的回顧と現状——……………	原 英子	411
巫者の呼称に関する一考察——ワカとイタコを中心に——……………	村上 晶	413
大衆文化としての〈イタコ〉とオカルトブーム……………	大道 晴香	414
宗教者の性格と役割について……………	佐藤 憲昭	415
幽霊能における告白——その類型と機能——……………	今泉 隆裕	416
祖霊を「作る」儀礼——ショナ族の祖霊信仰と憑依——……………	松平 勇二	417
巫者の守護霊——東アジアでの比較——……………	川上 新二	418
<b>第13部会</b>		
「梅小路」を通じて「宗教」を伝えるには——現場からの考察——……………	太田 俊明	420
宗教的問い「何」・「何事」考——宗教教育方法のデザイン——……………	小山 一乗	421
学校における瞑想実践——小学校・中学校での実践とその評価——……………	得丸 定子	422
トルコの宗教教育とアレヴィー教育——エスニシティとの関連で——……………	佐島 隆	423
ドイツにおける宗教科の歴史——「他者」とのかかわりを読む——……………	石川 智子	424
明治期・真宗大谷派における高等教育就学実態について……………	江島 尚俊	426
日系アメリカ人と仏教教育——戦前の浄土真宗を例に——……………	本多 彩	427
新宗教教団の展開過程における「宗教境界」の更新……………	佐藤 洋	428
アラント研究黎明期……………	飯嶋 秀治	429
英国植民地期サラワクにおけるアダットの成文化……………	土佐美菜実	430
タイ上座仏教と国家……………	矢野 秀武	431

## 総目次

バッファゾーンのチベット仏教——リメ運動の展開に焦点を当てて——	別所 裕介	432
シェンラブ伝に於ける孔子の位置	津曲 真一	434
ナオジョテから見たパールシー・コミュニティ	香月 法子	434
ドイツのヒンドゥー教——シュトゥットガルト等での寺院調査から——	山下 博司	435
ロバート・スミッソンのアースワーク	中島和歌子	437
<b>第14部会</b>		
宗教性の行動と社会貢献	濱田 陽	438
宗教専門紙が報じる過疎問題——仏教・神道系新聞を手がかりに——	冬月 律	439
沖縄の米軍返還地における村落祭祀とコミュニティ再編	越智 郁乃	441
ソーシャルキャピタルとしての天理教里親活動	金子 珠理	442
「道の台」と天理教の女性	堀内みどり	443
個の社会の和様化	川上 光代	444
現代都市生活における共存と神社の関わり	黒崎 浩行	445
知的障害者のグループホーム〈ラルシュ〉を支える倫理と実践	寺戸 淳子	446
会報		448
宗教研究 2012 年度総目次		xviii